

造影 MRI 検査についての説明

<造影 MRI とは>

ガドリニウムや鉄などを含む薬剤を、血管内に注射しながら行う検査です。造影剤を使うことによって、病変の存在や性状などが詳しく描出され診断に役立ちます。逆に造影剤を使わないことによって、実際は存在する病気が描出されないこともあります。

<造影剤の副作用>

以下の副作用が起こることがあります。通常、造影剤注射直後～30分後に起こります。

- ※ 軽い副作用（頻度は1～2%以下）：吐き気・嘔吐・頭痛・めまい・発疹・かゆみ・せき・涙などがあります。また、肝臓の検査で用いる鉄を使った造影剤では、背部痛が出現することもあります。
 - ※ 重い副作用（頻度は0.01%以下）：非常に希にショックや呼吸困難などに重篤な副作用が生じることがあります。また、100万人に1人ですが、造影剤による命に関わる副作用の報告もあります。
- また、以前に造影剤を使った際に副作用の出た方・気管支喘息やアレルギーのある方では、副作用の出現頻度が高くなっています。

<副作用が起こった時>

軽度の場合は、自然と改善しますが、症状によっては副作用改善させる目的の注射や飲み薬が必要な場合があります。また、高度・重篤な場合は、救命措置など必要な場合もありますが、当院では何時でもこの様な処置ができるように準備を整えております。

<造影検査を受けられた後の注意>

- ※ 造影剤は尿として体外に排泄されます。検査終了後は、造影剤の排泄を促進するために、できるだけ多くの水分を取るようになしてください。尚、心臓病・腎臓病などで、水分制限を受けていらっしゃる方は主治医までご相談ください。
- ※ 造影剤には、検査後1時間～数日後に起こる遅発性の副作用が希にですが起こります。症状は、発疹（かゆみ）・はきけ・発熱・頭痛・気分不良などで、多くは数時間で消失しますが、万が一このような症状やその他の異常がありましたら、かかりつけ医に連絡ください。